

みらいん

「みらいん」は、震災からの復興に向けて歩むまち・仙台の
“ひと”と“地域”の今を結ぶ情報誌です。
生まれたての「みらいん」を、どうぞ見てみらいん!



今月のひと 笑顔がすてきな4人娘

▲左より、完成した座布団に座る瀬戸みよのさん、菊地徳子さん、平山奈なよさん、平山ゆきのさん

毎日通う集会所で 笑顔のご近所づきあい

宮城野区の福田町南二丁目公園仮設住宅に、笑顔がすてきな四人娘がいます。彼女たちの平均年齢は八十四・五歳。四人はもともと新浜地区を中心にお住まいで、顔見知りの仲でした。仮設住宅に引っ越してからは、毎日集会所で茶飲み話に花を咲かせています。

この日も、大きな口の字型の座布団を作るワークショップに参加した四人。「いま昼寝してだご起ぎで来たんだよ」と奈なよさん。するとすかさず「なんだべ、いま寝たら夜寝れねべっちゃ!」と、ゆきのさんが茶々を入れます。集会所の中は大爆笑、一気に場が和やかにになりました。

大きな座布団は、さまざま布の端を短冊状に切り、その端を結び合わせて作ります。さすが和裁でならした腕の持ち主、四人は巧みなハサミさばきでどんどん布を切っていきます。その早さは、一緒に参加した学生ボランティアも舌を巻いたほど。彼女たちのリードで、座布団は二時間で完成。今は新しく出来た木造集会所「みんなの家」で愛用されています。

元気な 取り組み

このコーナーでは、地域の絆づくりや支援活動など元気に頑張っている取り組みをご紹介します。



▲芋煮コーナーには多くの方が訪れました



震災以来の再会を喜ぶ“宴”は会話が絶えませんでした▲

町内会の絆、もつと強く！

十月三十日、宮城野区の仙台港背後地六号公園仮設住宅で、自治会が主催する「中野地区復興まつり」が行われました。復興を担う一大イベントは、どのようにして開かれたのでしょうか。

共に歩む人々が親交を深める場

中野地区復興まつりの開催は、六号公園仮設住宅に住む佐藤修一自治会長の「震災で離ればなれになった人々が笑顔で集まれる場所を提供したい」との強い思いがきっかけでした。実現のため自らが実行委員長となり、地震から交流が途切れていた宮城野区の蒲生、和田、西原、港など四つの町内会へ参加を呼びかけました。

もともと各町内会は中野小学校の学区内にあり、毎年、盆踊りと運動会だけは共催していました。しかしそれ以外の催しを共同で行った実績はなく、祭りの開催にはさまざまな困難も予想されましたが、何度かの会合を設けて粘り強く話し合った結果、最終的には四つの町内会はもちろん、周辺の町内会からも多くの賛同者を得ることができました。

当日は二人近くの元住人や仮設住宅近隣の人々が会場を訪れ、「地域の絆」を取り戻すことができました。

当初予定は芋煮会。“絆”で祭り実現

実はこのお祭り、当初は仮設内の単なる芋煮会の企画に過ぎませんでした。しかし、準備を進めるうちに支援する団体や企業からの支援が膨らみ、イベ



▲南米音楽グループや伊達武将隊のステージも

ントの規模は徐々に拡大していきました。

この活動を通じて実行委員会の面々は、あらためて「絆」の大切さを実感。しかも、ただつながるだけではなく、「一つの目的に向かい、みんなで共に歩かなければ意味がない」とも考えるようになりました。たとえスタート時の目的が同じではなかったとしても、最後に想いが一つになれば、それが自分たちの力になるはず。今回のお祭りが、その事に気づかせてくれました。

イベント成功は、あくまでも「絆・再生」の第一歩。これをきっかけに今後も積極的な交流を続けていくことが、本当に大切な事だと思います。

お祭り成功の
ヒケツは…

“絆”を大切にして、
それぞれが
同じ目的に向かい
歩けたから。

佐藤修一さん



佐藤修一さん

8月に六号公園仮設住宅自治会長に就任。集会所で住人らの交流活動を促すなど精力的に活動中。

被災地レポート

取材地

仙台市農業園芸センター

このコーナーでは、仙台市内の学生が中心になって活動する情報ボランティア@仙台のメンバーが、復旧から復興の歩みに向かう仙台市内の津波被災地の今を報告します。

壊滅的な被害を受けた一角で
色とりどりのバラが見事に開花



▲バラの見ごろは11月中旬まで。訪問者も戻りつつあるとのこと

晩秋の仙台市農業園芸センター（若林区荒井）。広大な敷地は、周囲を含め今なお津波被害の爪痕が残っています。その一角の高台にあるバラ園は、かろうじて津波の被害を免れました。赤や黄、青、紫色など約二百種、千二百本。咲き誇る色とりどりの花々

が、生命の息吹を感じさせています。

十月上旬に部分再開した同センターは、海岸から約三キロ内陸にあります。東北地方で最大級の大温室は壊滅的な被害を受け、復旧のめどはいまなお立っていませんが、このバラ園については、「手入れもまったくできない状態でしたが、生命力で花が咲きました」と、管理する市農業園芸振興協会では話しています。

いつかあの頃のように……
市民が今抱く復興への希望

「ここまで見事に咲いているとは思わなかったわ。震災前はよくここにきて、花の観賞や農家さんたちが育てた野菜を買いに来ました。復興は時間がかかるでしょうけど、あのころののんびりとした時間が早くここにも戻ってきてくれるといいですね」。十月下旬、泉区南光台からバラ園を訪れていた六十代の夫婦が話していました。

取材・文：藤井芽生@東北福祉大学

震災困りごと Q&A ～誌上弁護士相談～

Q ローンの問題や相続の事などを法律の専門家に相談したいけど、どうしたらよいですか。

A 最近は弁護士がテレビに出ることも増えましたが、実生活上で弁護士と接する機会のある方は多くないため、どうしても敷居が高く感じられてしまうようです。弁護士は法律の専門家として、悩み事の問題点を整理したり、法的助言をすることができますから、困ったときは是非相談いただきたいものです。

仙台弁護士会館の法律相談センターでは平日毎日法律相談を実施しています（予約不要。1回30分5,000円。借金、生活保護等一部の相談は無料。月・木曜日は夜間相談も実施中）。また、各区役所や法テラス（日本司法支援センター）でも無料法律相談をしています（予約制）。これらの法律相談は是非気軽に利用していただきたいところです。ただ、これらの相

談は時間が30分限定ですし、相談する弁護士も選ばません。

特定の弁護士に相談したい、ゆっくり時間をかけて相談したいという場合は、各法律事務所に相談いただくことになります。インターネットで法律事務所のホームページをみたり「弁護士サーチみやぎ」で検索して弁護士のプロフィール等を見ていただくと、弁護士をより身近に感じられるでしょう。相談は予約制の場合が多いので、まずお電話を。相談料は30分あたり5,000円前後が通常です。

相談の際には、質問したいことや事実経過のメモ書きや関係資料を持参していただくと話がしやすいです。



今回の先生は……

はたけやま ゆうた

プロフィール **畠山裕太** 弁護士

仙台弁護士会所属。東北大学卒。大町法律事務所。
河北新報「震災法律問題 Q&A」編集担当
「既存債務からの解放を求める緊急請願署名」事務局長等

法律相談の連絡先

仙台弁護士会法律相談センター

仙台市青葉区一番町2-9-18
TEL：022-223-2383

「みらいん」誌上で弁護士の先生に相談したい方、ぜひ困りごとの内容について教えてください（4ページ参照）

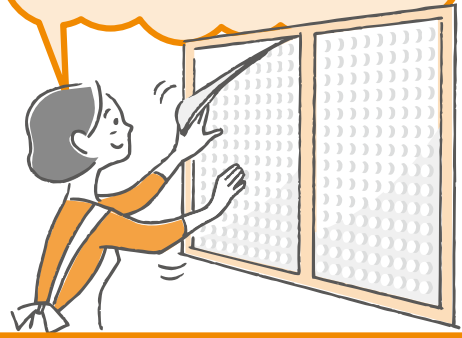


仮設住宅の 快適生活

窓

プチプチシートで 結露対策

これからの季節、悩むのは結露。結露対策に“プチプチシート（気泡シート）”の活用を耳にした方も多いと思いますが、仮設住宅でも非常に効果があります。窓の内側全面に“プチプチシート”を貼ることで窓が二重ガラス状になり結露を抑えることができます。両面テープで四辺を貼るときれいにできます。ただし、くれぐれも火気にはご注意ください。



慣れない仮設住宅の暮らしはいろいろと不便を感じる人が多いのでは？

このコーナーでは、身近にあるものを利用して、仮設住宅の暮らしをより快適に過ごせる工夫や“おばあちゃんの知恵袋”的な豆知識を紹介します。webサイト「仮設のトリセツ」で取り上げられた例をはじめ、皆さんが日々の暮らしの中で実践されているアイデアも紹介しますので、おススメ情報を編集部へお寄せください。



出張！仮設のトリセツ in 太白区あすと長町

10月11～12日、あすと長町仮設住宅にて、新潟大学岩佐研究室の協力で、「出張！仮設のトリセツ」が行われました。仮設住宅改造例の展示のほか、カスタマイズ講習会が開かれ、東北工大の学生と住民が大工仕事を通して交流する場面も。

仮設のトリセツとは 新潟大学岩佐研究室の取り組みを紹介するwebサイト。仮設住宅を快適に住みこなすための若干の改造、生活の中の暮らしの知恵などが紹介されています。http://kasettsukaizou.jimdo.com/

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介していきます。

【学習支援】

お子さんの学習を支援します

NPO法人アスイクは、奨学金・個別指導付き学習スペースを提供する「まなびのタマリバ」を開設しています。奨学金が適用された場合は月額5,000円で利用できます。先着20名で事前申し込みが必要です。

対象 仮設住宅（みなし仮設扱いの借上民間賃貸住宅や社宅等を含みます）に入居の小学4年～中学生
時 毎週火～金曜日 18:00～20:00
所 みやぎNPOプラザ（宮城野区榴ヶ岡）
問 070-5621-8523（伊達）

太白区

在仙劇団による出前上演

11月26日（土）14:00から（開場13:30）、あすと長町仮設住宅集会所。入場無料。Theatre Group“OCT/PASS”（シアターグループオクトパス）が「人や銀河や修羅や海胆は」を上演します。
対象 どなたでも観覧できます 問080-6024-8696（劇団携帯）

若林区

朝の健康体操をご一緒に！

土日を除く平日9:30から10:00まで、ニッペリアクラブハウス内。替え唄に合わせ独自に作った「にっぺ体操」。朝の会の呼び名も募集中。
対象 若林日辺グラウンド仮設住宅の入居者
問 090-6568-4380 クラブハウス管理室（細谷、秋谷）

宮城野区

おしゃべりしながら毎週編み会

木曜日10:00～12:00、港南西公園仮設集会所 ▼ 木曜日13:30～15:30、福田町南1丁目公園仮設集会所 ▼ 金曜日13:30～15:30、岡田西町仮設集会所
対象 どなたでも参加できます
問 022-259-0731 仙台津波復興支援センター（野村）

編集後記

今回あらためて「震災はまだ終わっていない」ことが認識できました。今後も皆さんと一緒に取材を続けていきたいと思っています。（さいとう）

未来、ライン、見らいん。いろいろな想いが詰まった情報誌が始まりました。読んで役に立った、心がほっとした、そんな感想を抱いてもらえる誌面を作りたいです。（岡崎）

情報提供のお願い

「みらいん」は、皆さんと一緒に作り、歩む情報誌です。誌面に対するご感想や、紹介したい人や・場所、今抱えている想いなどのコメントをハガキ、FAX、メールでお寄せください。読者の皆さんの思いを、誌面に反映していきます。
送付先 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
FAX : 022-390-5756
e-mail : kawara@mmmm.or.jp